

ババハシリグモ *Dolomedes fontus* Tanikawa et Miyashita

【選定理由】

県内では極めて限られた地域に生息する。新城市作手岩波、豊田市市木町、豊田市（旧下山村）の3ヶ所に生息する。どの生息地も極めて個体数は少ない。今後、生息地の環境悪化によっては、危機的な状態におちいることが懸念される。

【形態】

体長雌 11~18mm、雄 9~15mm (谷川・宮下, 2008)。雌雄とも背甲は濃茶褐色で、中窩に茶色の細い縦条がある。両縁は幅広い茶褐色で外縁は灰白色。雌雄とも腹部背面は濃茶褐色で、心斑は淡褐色。両縁は幅広い茶褐色で、背甲と腹部上面とも配色パターンは似る。4脚とも各節は淡褐色で環はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊田市・新城市に分布する。

【国内の分布】

千葉県・東京都・栃木県に分布する (新海ほか, 2018)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

山間部の湿地や湿潤地に生息する。新城市作手岩波は湿地だが、豊田市の2ヶ所は湿潤地である。幼体で越冬し、7~9月頃に成体になる。雌は8~9月にかけて産卵し、卵のうを触肢で抱え込み、口器にくわえて徘徊する。

【現在の生息状況／減少の要因】

1991年6月9日に豊田市勘八町の山間部にあるため池周辺の湿潤地で雌雄6頭を採集したのが国内初記録である。その後、ため池の水量が増し生息地は消滅した。その後、数回調査を実地したが確認できず、絶滅したと思われる。現在は新城市作手岩波、豊田市市木町、豊田市（旧下山村）で確認されているが、いずれも個体数は極めて少ない。生息地の環境悪化が主な減少要因と考えられる。

【保全上の留意点】

長ノ山湿原は愛知高原国定公園第1種特別地域と愛知県天然記念物に指定されている。

湿原の開発はできないので、個体数は維持されると思われる。しかし、隣接する湿原には自由に立ち入ることができ、植物や昆虫の撮影目的等のためにひどく踏み荒らされている。この湿原にも生息を確認しているので、立ち入りを制限する等の対策が必要である。元々数が少ない種と思われるので、生態を明らかにするためにも継続調査が望まれる。また、豊田市の生息地は保護されている。

【特記事項】

同属のイオウイロハシリグモ (*D. sulfureus*) は色彩変異があり、スジボソ型やスジブト型の色彩が本種に酷似するので注意を要する。

【引用文献】

Akio Tanikawa & Tadashi Miyashita, 2008. A revision of Japanese spiders of the Genus *Dolomedes* (Araneae:Pisauridae) with its phylogeny based on mt-DNA. *Acta arachnol.*, 57(1): 19-35.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

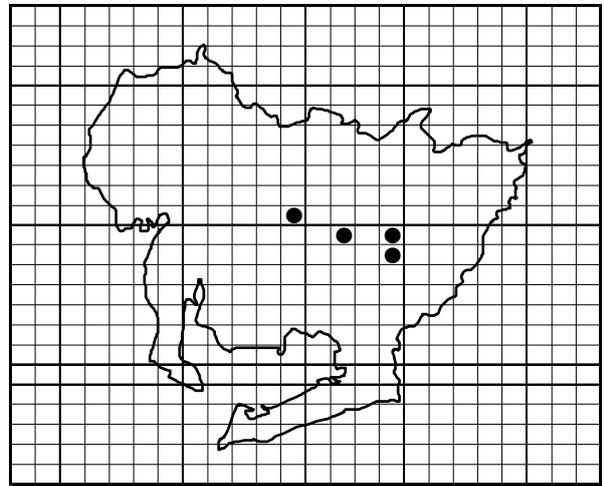
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, p.213. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.313,554. 東海大学出版会部, 神奈川.



♀. 新城市作手岩波町 (長ノ山湿原), 2010年5月15日, 緒方清人 撮影

県内分布図



(緒方清人)